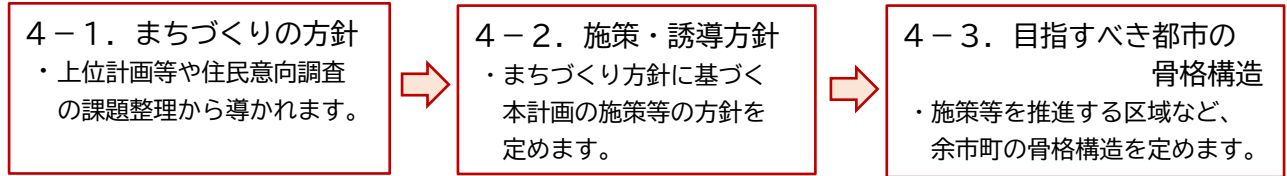


第4章 計画の基本方針

計画の基本方針は、以下の手順で設定されます。



4-1. まちづくりの方針

(1) 上位計画・都市構造等の課題

上位計画や都市構造等から導かれる課題を整理します。

余市町が抱える課題	人口減少に応じたコンパクトなまちづくりと効率的な行政サービス	J R並行在来線廃止に伴う都市構造の見直し	公共交通ネットワークの見直し	流入人口低下がもたらす地域経済悪化への対応	老朽化が進む公共施設の更新・再編
	<ul style="list-style-type: none"> 人口半減（30年後推計）による行政サービスの提供、財源不足への対応 将来人口に応じたコンパクトなまちづくりと効率的な行政運営（人口ビジョン） 	<ul style="list-style-type: none"> 経営分離される並行在来線（長万部一小樽間）の廃止とバス転換への対応 鉄道によって隔てられている市街地の在り方の再考（区域マス） 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の核となるバスターミナル化の構築 通勤や通学、高齢者や交通弱者、来街者に応じた公共交通の見直しと効率的な交通ネットワーク構築 	<ul style="list-style-type: none"> 並行在来線廃止に伴う流入人口の低下や町民の外出機会の減少がもたらす地域経済の循環悪化抑制 中心市街地の空洞化を食い止め、活性化促進 	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化が著しい公共施設の維持・修繕費用の確保 長寿命化の視点を踏まえつつ必要に応じた施設の複合化・集約化（総合計画）

(2) 住民意向調査からの課題

アンケート調査の結果から導かれる課題等を整理します。

町民アンケートの考察	①人口減少、少子高齢化への対応
	<ul style="list-style-type: none"> 行政に関わるサービスは、ICTをはじめとするデジタル技術を駆使して省力化や業務効率化を図り、現在の水準を向上することで町民の利便性を確保する必要がある
	②拠点・都市規模の設定
	<ul style="list-style-type: none"> 拠点のあり方と人口減少を見据え、コンパクトなまちとなるような都市規模を設定することが必要である
	③防災・減災対策の強化
	<ul style="list-style-type: none"> 都市のコンパクト化に対応した避難施設の収容人数拡充、避難訓練や防災教育の実施が考えられる
	④空き家の増加が招く居住環境低下への対応
	<ul style="list-style-type: none"> 中古住宅の流通売買を円滑に行うしくみや組織、あるいは地域で空き家を管理して治安や景観の維持につなげる方法などの検討が考えられる
	⑤住民主体のまちづくりの推進
	<ul style="list-style-type: none"> 町民の意見を広く取り入れ施策に反映し、持続可能な都市運営を図ることが重要と考えられる

(3) まちづくりの方針

上位計画や都市構造、住民意向調査結果の課題から導かれる、まちづくりの方針を以下に示します。

まちづくりの方針	都市構造の変化に対応し、すべての人が快適で安全な生活を享受できるまちづくり
----------	--

4-2. 施策・誘導方針

まちづくりの方針に基づき、効果的な施策を展開するため、5つの誘導方針を定め、総合的なまちづくりの展開を目指します。

課題解決のための施策・誘導方針	①都市構造の再編による都市・生活機能の集積	②鉄道で隔てられている東西のまちの一体による拠点化の強化	③公共交通ネットワークの再構築	④地域産業及び観光業の振興	⑤環境に対応した持続可能なまちづくり(SDGs)
	<ul style="list-style-type: none"> ・都市機能誘導区域は「黒川地区」を中心に複数の拠点を設定(多核化)し、秩序ある市街地の構成を目指す ・居住誘導区域は土地区画整理により整備され、人口が増加している「まほろばの郷地区」を含め、将来人口を見据えて設定する ・区域設定に際しては、災害ハザードと照らし合わせて安全な地域への誘導を行い、「防災・減災」に対応したものとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺において、公共交通を含めた東西連絡動線の確保により分断感を解消し、高齢者や観光客などあらゆる人にもわかりやすいユニバーサルデザインに配慮したものとする ・賑わい創出のため駅前道路「リタロード」のバリアフリー化、電線共同溝等の景観整備を行い、沿道地域の活性化と、中心市街地の明確化のため広域都市機能や役場など行政機関が集積する「朝日・入舟地区」へのつながりを強化する 	<ul style="list-style-type: none"> ・町民の利便性向上のため現JR余市駅周辺の「バスターミナル化」を図り、地域公共交通の核となる機能を担保する ・余市町は「小樽・札幌」「倶知安・ニセコ」「積丹」など各方面の分岐点であることから、バスによる「新幹線駅」を含む周辺市町村とのアクセス性のさらなる強化を図り、観光客の後志管内への周遊、地域住民の町外移動の利便性を向上する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「道の駅」を余市IC付近に新規に計画し、来訪者をまちなかに導くためのゲートウェイ機能を強化する ・人口減少の抑制のため、「DX化」の推進により、快適で利便性の高い都市を構築し、町外からの移住促進を図る ・増加する空き家、空き店舗など「既存ストック」の積極的・有効的な活用を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設は、都市機能誘導区域内への移設により「集約・複合化」を行い、利便性とあわせて維持管理の効率化も図る ・新たに建設する施設は、地球温暖化に対応するZEB・ZEH[※]化を促進し、「ゼロカーボン」の達成を目指す <p>※創エネ・省エネによりエネルギー収支ゼロを目指した建築物</p>

4-3. 目指すべき都市の骨格構造

- ・本町における市街地形成は、発祥の地である西部地区から東方向へ拡大する形で広がり、JR余市駅前を中心とした地域に中心市街地が形成されましたが、その後、自家用車の普及等を背景に国道5号と道道登余市停車場線沿いに市街地が広がりました。
- ・このような背景を踏まえ、居住誘導区域や都市機能誘導区域の検討にあたっては、余市町全体の観点から拠点と基幹的な交通軸を設定し、余市町の骨格構造を設定します。
- ・基幹的な交通軸と拠点については、『余市町都市計画マスタープラン』の将来都市構造において定めている「ゾーン（土地利用）」「都市軸（主要動線）」「拠点（生活や交流の主要な場所）」の考え方を基本とします。
- ・都市を支える「中心拠点」は、JR余市駅を中心に線路を跨いだ東西の範囲を一体的に構成し、本町の中核をなす地域を位置づけます。
- ・経済・交流を支える「地域核拠点」は、行政施設、文教施設等が立地している地域を位置づけます。（役場や税務署が立地する朝日・入舟地区を設定）
- ・日常生活を支える「生活拠点」は、中心拠点と地域核拠点周辺の用途地域内において、商業施設や医療施設、子育て施設、集会施設等が立地している地域を位置づけます。（まほろばの郷地区、沢・富沢地区の2つを設定）
- ・各拠点については、公共交通を主としたネットワークを構築し、連携を図りながら生活の利便性を確保します

